

会議の概要

令和２年度 第９回 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会
○ 大玉中学校学校運営協議会

日 時：令和３年２月２５日（木）１８：３０～２０：０５
場 所：改善センター１階 多目的ホール

（進行 指導主事 斎藤一範）

１ 開会のことば （おおたま学園ＣＳ委員会副会長 大山 明美）
これから第９回コミュニティ・スクール（以下ＣＳと略記）委員会を始めます。よろしくお願いします。

２ 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）
○ 皆さんこんばんは。本日が今年度最後のＣＳ委員会となりました。まずは御礼を申し上げます。今年１年間、コロナとの長い闘いの中、委員の皆様には知恵を出し合ったり、汗をかいたり等本村の教育のためにご尽力いただき本当にありがとうございました。
○ 後ほど「協議（２）」のところで話し合うが、皆様からお寄せいただいた本年度の成果や課題、ご意見等を「なるほど」と思いながら読ませていただいた。ぜひこれらを共有しながら、来年度に繋いでいきたいと考えている。
○ 第２回コミュニティ広場についても、このようなアイディアは、会長さんも以前言われた「ピンチをチャンスに」という考え方を生かしたものになっている。小・中学生の発表は興味深い内容になっている。２月２８日（日）まで配信されているので、ぜひご覧いただきたい。知り合いの方にも勧めていただくとありがたい。
○ 「資料『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」について
これは中央教育審議会が出したものである。（令和２年１０月に素案、令和３年１月２６日に答申）
——急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力——

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」の到来
新型コロナウイルス感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

※ Society4.0 情報社会
3.0 工業社会
2.0 農耕社会
1.0 狩猟社会

新学習指導要領の
着実な実施

ICT活用

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

・ 今まで行ってきた日本の教育（全人教育）が高評価を得ている。今後の教育のキーワードはプラス「個別最適な学び」「協働的な学び」である。

全国ＣＳ連絡協議会会報 No.14 には、「このような営み（全人教育＋「個別最適な学び」「協働的な学び」）を担保するしくみこそがＣＳや地域学校協働活動」と記されている。そして、皆さんから知恵をいただいたり、一緒に仕事をやっていただいたり、汗を流していただいたりした活動が正しくそれに当てはまると思っている。

来年度以降も、本村の教育は、ＣＳと地域学校協働活動を両輪としていくことになると思います。どうぞよろしくお願いします。

3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ

(CS委員会会長 伊藤 和弥)

- 皆さん改めましておぼんでございます。本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。第2回コミュニティ広場が現在YouTubeで配信中であるが、本当におもしろい発想がたくさん出てきている。去年もそうだったが、その中で出たことを何かしら実現できないかということで、CS委員会としてはできないのだが、矢吹副会長が動いているということを聞いている。後ほど話があると思うので楽しみにお聞きいただければと思う。
- 本日の一番大事な協議事項は、「令和3年度各校園の経営・運営の方針等の承認」である。各校園からの説明後、意見交換の時間があるので、疑問等があればぜひこの機会にお話しいただきたい。本日の会議の時間は20時05分までと限られているが、有意義に最後を締めくくりたいと思う。よろしくお願いいたします。

4 諸連絡 本日の日程・内容について

(事務局 指導主事 斎藤 一範)

<2つの協議内容について>

(1) 令和3年度各校園の経営・運営の方針等について

まず、各校園の評価委員長から学校関係者評価委員会の内容について4分程度で説明いただく。それを踏まえて、各校長・副園長から来年度の説明をお願いしたい。特に、来年度重点的に取り組むことや学校関係者評価の結果をもとに来年度改善すること、重点化していくこと等を中心に、5分程度で説明いただければと思う。その後、意見交換、承認ということで10分程確保している。



(2) 令和3年度おおたま学園CS委員会の運営について

今年度の反省、来年度の計画について説明する。それを踏まえて意見交換という形で進める。

5 協議

(座長 CS委員会会長 伊藤 和弥)

(1) 令和3年度各校園の経営・運営の方針等について

① 学校関係者評価委員会について(学校関係者評価委員長より)

○ 大山幼稚園 (CS委員 斎藤 信一)

○ 「進んで遊ぶ子」について【自己評価の適切さ…A、改善に向けた取組の適切…A】

- ・ 本年度はコロナウイルスの影響で4月から休園となり、5月末から再開した。そういう中、当然子どもたちが幼稚園に慣れるのに個人差があったと思うが、先生方の様々な指導の工夫と努力のお陰で、この前参観したときにはみんな元気よく話をしたり、遊んだりする姿が見られた。コロナ禍ということで、私自身あまり幼稚園には行けなかったのだが、幼稚園の前を通った時には元気で自由に遊んでいる子の姿を度々見ていた。自由に一生懸命遊べるということは、先生の目が必要であることであり、一人一人の子どもをしっかりと見ているのでそういうことが可能なのだろうと感じた。
- ・ 絵本の貸し出しが行えなかったことは、消毒の面の難しさがあり仕方がない。コロナが収束してからになると思うが、文字量の少ない本も選べるように配慮いただくと、家でも親が読んであげやすいのでよろしくお願いいたします。

○ 「なかよく遊ぶ子」について【自己評価の適切さ…A、改善に向けた取組の適切…A】

- ・ 私たちが幼稚園に行った時、近づいてきて挨拶をしてくれる子どもがたくさんいた。自分から進んでできないような子も、こちらから声をかけると近づいてきて挨拶をしてくれた。去年から「あいさつができる子どもに」ということで努力しているが、学校関係者評価委員から見ると十分であり、挨拶は浸透しているのではないかと感じる。

気付いたこととしては、園だよりに関してだが、文字がびっしり書いてあり、読み手側から見ると抵抗がある場合もあるので、写真等挿入するなど工夫してみてもどうかと考える。

○ 「元気に遊ぶ子」について【自己評価の適切さ…A、改善に向けた取組の適切…A】

- ・ 増築時に撤去されていた遊具が再設された。年少組の子どもたちも身体に合った遊具で運動することができるようになった。3歳児や年中児の背の低い子どもにとってもとても良いことである。(小学校の遊具は高さが全く違うので)

- ・ 参観に行った時が朝の時間帯で、園児たちが朝食で食べてきたものを話す活動があった。そんな活動が食の意識づくりに役立っているのではないかと感じた。ただ、菓子パンという回答が多かったことが現在の家庭の実態を表しているのかとも感じた。

○ 全体意見として

- ・ コロナ対応で先生方は大変だったと思う。この状況の中でも、工夫し体験させてあげようという思いが伝わった。
- ・ 幼稚園への期待は大きい。園児にとっても「昨日よりは今日」と、喜んで登園できることは嬉しいことである。様々な工夫をし前向きに保育活動を進めていた。
- ・ コロナ禍の中、職員が一丸となり感染防止に努力を費やししながら日々の保育を適切に展開した。

○ 大山小学校

(CS委員 館下 愛理)

- 2月5日(金)、5校時目の授業を参観をし、その後学校関係者評価委員会を実施した。3年生から6年生までの授業を一通り見せてもらったが、先生方と子どもたちが会話をしながら進めていく様子であった。子どもたちの雰囲気はとても明るく、率先して話す子もいれば、それをじっくりと聞いている子もいるといったような和やかな雰囲気の授業が展開されていた。

○ 評価について

重点目標としてあげられている項目の達成状況、及び取り組みの適切さで学校としてはBという評価であった。評価委員としては、内容が学校側が出したものと評価委員が評価するものがかみ合っているということで、3つの重点目標についていずれもAとした。詳しくは評価報告書をご覧ください。

○ 全体意見として

- ・ 先生方はとても忙しいように見受けられる。先生方にも余裕が必要である。コロナ対応に振り回されてきたと思うが、その中でも工夫して子どもたちの教育に努力を重ねていることを大変ありがたく思っている。
- ・ 先生方はコロナ禍によりたくさんの制限があっても、様々な方々と協力し、子どもたちのために工夫しながら日々の授業を進めていることに感謝している。



○ 玉井幼稚園

(CS委員 佐藤 拓未)

- 重点課題として挙げられたすべて項目について、「自己評価の適切さ」及び「改善に向けた取組の適切さ」について、評価委員で全てAとした。詳細については、報告書をご覧ください。なお、「学校関係者評価委員会の全体意見」として、
 - ・ 今年度は3年保育がスタートして3年目であった。このコロナ禍の中で様々な制約があったにもかかわらず、教職員の皆さんが安心して子どもと向き合えるように、いろんなことを工夫しながら園運営をされてきたことに感謝している。
 - ・ コロナ禍だからこそ、今まで当たり前だったこと、蓄積があってやってきたこと等をもう一度点検し直して、新しい形でトライしていただくことで新たな発見ができたということである。その意識の高さが素晴らしいと感じた。
 - ・ コロナ禍の中でも子どもたちが大きくなっていくわけだが、主体性や協調性をもって、トライすることを園生活の中で学んだのではないと思う。保護者も幼稚園と連携して、1年間家庭生活の中で感染予防に努めることができた。

○ 玉井小学校

(CS委員 渡邊 良雄)

学校から達成状況、取組の効果等が示されていたが、評価委員会として「自己評価の適切さ」「改善に向けた取組の適切さ」共にAと評価した。詳細については報告書の通りである。

- 確かな学力の向上について

コロナということで学校に行けない時期があり、その間家で過ごしていたわけだが、(仕方のないことだが) 子どもはどうしても遊びたくなってしまうことが多かった。その期間が長く、ゲームをして過ごすことが多くあって、本を買って読むことができない状況でもあったことから読書意欲の低下が見られたようである。学校再開以降、学校司書教諭等の努力、読み聞かせボランティアの協力等があって意欲低下を防ぐことができた。

- 豊かな人間性や社会性の向上
コロナ禍であっても、対策をしっかりと講じて学校行事を実施できたことに感謝している。
- 健康の保持・増進、体力の向上
 - ・ 朝食摂取については問題はない。
 - ・ アウトメディアについて
ゲームの時間が長いというアンケート結果もある。ただ、この点についてであるが、大人を対象に様々なゲームソフトが用意されており、また、ネット社会における犯罪も多発しているという現状を踏まえ、子どもだけでなく保護者にもその危うさを知ってもらうことが大切である。
 - ・ 防災教育については学校での指導はもとより、地域・各家庭での訓練や意識付けが大切であると考え。
- 学校関係者評価委員会の全体意見
 - ・ 子どもたちは、学校で学ぶことだけでなく、地域・保護者に学び、また、地域・保護者は子どもたちから勉強させられる場面もあり、こうした「学習」が子どもたち・地域・保護者を共に成長させることができる「恵まれた環境」になっている。大きな誇りである。

○ 大玉中学校 (CS委員 國分 純一)

- 5つの重点課題(①学校経営の基本方針【全教職員による協働的・組織的な取組】 ②共栄：認め合い高め合う生徒【生徒とのふれあいを大切にした豊かな心や創造性の育成(徳育)】 ③自学：意欲をもって学ぶ生徒【生徒主体の授業を展開した確かな学力の向上(知育)】 ④自鍛：自ら心身を鍛える生徒【きめ細かな心配りによる健康の保持増進と体力の向上(体育)】 ⑤地域と共に歩む学校づくり【社会に開かれた教育課程の実現と共に歩む学校づくりの推進】)について、自己評価の適切さ、改善に向けた取組の適切さについて全てAと評価した。
- 全体意見として
 - ・ 今年はコロナ禍の影響で当初予定されていた行事の中止や延期を余儀なくされるなど、異例の年であった。私たちが当たり前のように体験してきた修学旅行、文化祭などの学校行事を中止せざるを得ない他の学校もある中、感染リスクを抑えながら協議を重ねた上で実施していただいたことに感謝している。教職員の「子どものために」という強い思いが感じられた一年であった。
 - ・ 枠にとらわれずに、先生方一人一人がいろんな考えを出し合い、それを受け止めてもらえるシステムになっており、他の団体運営にも参考となるものである。
 - ・ 「できない」と諦めてしまうことは簡単であるが、できるようにするためにどのようにしたらいいかという視点をもつことが大事である。ただ、「どうしてもやらなければならない」となってしまうと先生方のプレッシャーも大きいのではないかな。先生方の心のケアも大切にしながら、来年度は取組んでいただきたい。



② 令和3年度各校園の経営・運営の方針説明(各校・園より)

【資料：各校・園 令和3年度学校運営の方針(学校運営ビジョン)】

○ 大山幼稚園 (副園長 後藤 弥和子)

- 大玉村が目指す教育、教育振興基本計画、令和3年度幼稚園教育重点事項を踏まえ、それ

らに近づけていけるよう考えた。

- 教育目標は大山小学校と同様で『めざせ！夢に向かってがんばる子～地域と共に、自らの夢に向かって努力し、未来を拓く子どもの育成～』であり、重点目標も今年度と変わりはない。
- 令和3年度重点事項にあるように、主体的な遊びや活動を通して、考えたり分かたりすることの楽しさや喜びを十分に体験できるようにしていきたい。また、主体的・対話的な深い学びができるように遊びをコーディネートしていきたい。



<重点事項について>

「自ら進んで意欲的に遊ぶ子の育成」

- 【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】の「思考力芽生え」、「言葉による伝え合い」につながるよう、ビジョンの「自ら進んで意欲的に遊ぶ子の育成」のところで、今までは「主体的に遊ぶ力の育成」を、来年度は「主体的・対話的に活動する力の育成」とした。
 - ・ 子どもが身の回りのことに興味をもって関わりながら、自分たちがやろうとすることへの見通しを立てて、自分たちがやってきたことを振り返りながら活動できるようにする。
 - ・ 自分たちの考えを言葉などに表して、友だちと共有し伝え合えるようにしていく活動を通して、子どもたちの考えが広がり高まっていくようにする。
- 活動と考える過程を重視する。 → 「②ア」を「自ら考えじっくりと試したり工夫したりする活動の充実」から「試行錯誤する過程の重視」へ変更
- 伝え合うことに重点をおき、振り返りや伝え合いの場の工夫をし、自分の気持ちをきちんと主張して友だちとたくさん言葉を交わし合えるようにする。
 - ・ 園児の実態として普段の会話を楽しんではいるが、待っていることができなかったり、してほしいことをはっきりと言えなかったり、自分の言いたいことは言えても友だちの話をなかなか聞けなかったりすること等が挙げられる。
- 「道徳性・規範意識の芽生え」に重点をおくため、意図的にみんなで考える場をつくって話し合う活動を取り入れる。
- 令和3年度重点事項「自分の気持ちをきちんと主張し、友達とたくさん言葉を交わし合う体験をする」 → 「わくわく Thinkinnng タイム」の充実
- 教師の遊びのコーディネート力を磨く → 園内研修等の充実
- 新型コロナ対策

本年度は、行事の見直しをし、現状できることは何か、ねらいを達成するためにはどうするか等を職員会議で話し合いながら取組んできた。感染症予防のため、参観日の中止や地域の方々においていただいていた行事を縮小した。来年度は、感染症予防をしながら、また、地域の感染状況を踏まえながら工夫して進めていきたい。

「身近な人とかわらうとする子の育成」

- 「①エ」を「自他のよさや違いを認められるよう援助する」から「互いを認め合うクラス・集団づくり（思いやりの心）」に変更した。まずは教師がモデルとなって、園児一人一人を言葉に出して褒めるよう努め、温かい思いやりのある集団づくりをめざしていきたい。

「心も体も健康な子の育成」

- 遊具が園庭に設置されたので、さらに安全面に配慮しながらたくましい身体づくりに努めていきたい。
- 家庭との連携を深めながら、基本的生活習慣の自立をめざす。現在も早寝・早起きができなかったり、朝食を食べてこなかったりする子ども目にする。その子（家庭）なりの事情もあるので、寄り添いながら指導を進めていくようにする。
 - また、保護者へのお知らせやお願いしたいこと等、評価委員からアドバイスをいただいた。

保護者が読みやすいように工夫するとともに、「元気もりもりカレンダー」の更なる活用の仕方等も工夫していきたい。

○ 大山小学校 (校長 舘脇 一弘)

- 学校関係者評価の内容をもとに、マイナーチェンジをするという考え方で立案した。
- 「めざす教職員像」の「1」に「※多忙化解消アクションプランⅡを踏まえた取り組み」と付け加えた。
- 「知」「徳」「体」それぞれのサブタイトルをシンプルに一つにまとめた。
- 本校の課題は4点（学力の向上、読書活動、基本的生活習慣、体力向上〈肥満傾向〉）である。この他に令和3年度全児童に配付されるiPadの効果的な活用、新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの教育活動の充実等を織り込んだビジョンになっている。

<重点事項について>

「進んで学習する子」～自ら考えともに学び育つ子どもを育てる～

- 学力向上については『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指した授業づくり』に、読書活動については「学びを支える学習基盤づくり」のところに入っている。
- 「学びを支える学習基盤づくり」のエに「ICT等の効果的な活用による学習活動を充実させる」を付け加えた。

「なかよく助け合う子」～進んで「ひと・もの・こと」に関わりながら互いの人権を尊重する心を育てる～

- 昨年度までは道德教育と生徒指導と分かれていたものを合わせて、「心に寄り添う教育の充実」とした。その中で「ア」に記した学級経営交流会で取り組んだ教員の研修がどれだけの効果があったのか明確ではなかった。Q-Uテストにおいて、学級でどのような変化があったのかをデータの分析を行いながら研修に取り組むようにしたい。

「健やかでたくましい子」～健康で安全な生活ができるようたくましい心身を育てる～

- 体力向上・肥満防止のために、「運動身体づくりプログラム」を自校化して毎時間体育の時間に取入れるようにする。
- 基本的生活習慣の確立については、安全教育の充実も含め、引き続きおおたま学園の取組を生かしながら進めていく。
- 新型コロナウイルス感染症についての正しい知識・理解と実践力を高める。
- 学校生活全般を通して、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら全教育活動を通して「基礎的・汎用的能力」「非認知能力」の育成に努める。

○ 玉井幼稚園 (副園長 佐藤 文江)

- 教育目標等は大きく変わってはいない。
- 教育目標は小学校と同じで『自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども・自ら考える子ども・心豊かな子ども・たくましい子ども』である。
- 重点目標は、「自ら考え、進んで行動する子ども」「友達と仲良くできる子ども」「目標に向かって挑戦できる子ども」の3つをあげた。その中で、今年度と変更する点は、「意欲を育てる」を「育成」という表現にし、分かりやすくしたことである。

<重点目標について>

「自ら考える子ども」

- 主体的に活動する意欲の育成
 - ・ 「①興味や関心をもたせ、活動を選択できる環境の工夫」とした。今年度は「選べる環境の工夫」であったが、選ぶだけでなく、活動の工夫も自分たちの遊びの中で選択していけるよう考えた。
 - ・ 「②個に応じた支援の充実」
一人一人をよく見極め、子どもの発達に応じて足りない部分を個別に対応していきたい。
 - ・ 「③自分で考え、判断して行動したり、自分の思いを伝えたりできる援助の工夫」
今年度は場面の設定だったのだが、設定しておくだけでは子どもたちの活動の充実を図れない。村の重点の中は、「教師は一人一人の成長を認め、自分の力を発揮し、遊びが発展できるようコーディネートする」であるので、そういった意味からも、教師自身が意識的

に援助を工夫していくことが必要であると考えた。

- 遊びを創造しようとする意欲の育成
 - ・ 今年度まで「場の設定」としていた部分を「充実」という表現に、「読み聞かせの充実」を「絵本や物語に親しむ環境の工夫」という表現に変えた。以前のCS委員会の熟議で、「読み聞かせの充実」となっているが、そうすると読み聞かせを充実するために絵本を充実させるのか、それとも読み聞かせの仕方を充実させるのかが分かりづらいので、もっと具体的にした方がいいのではないかという意見をいただいていた。そういった中で、絵本や物語に親しむ環境の工夫とした。

「心豊かな子ども」

- 思いやりの心の育成
 - ・ 「①友達と生活する楽しさを味わえる活動や支援の工夫」とした。
 - ・ 「③自他のよさや多様性を認め合える学級経営」
今年度の「違い」を「多様性」に変えた。
- 豊かな体験活動の充実
 - ・ 「②」について
今年度の「おおたま学園」を「玉井小、大山小、地域の方々」というふうに具体的に表記した。また、職員間の反省で、今年度はコロナ禍の中で交流という部分がどうしても少なくなってしまうという反省があったので、来年度は、このような中でもできることを模索しながら、より子どもたちの交流活動が充実するよう考えていきたい。

「たくましい子ども」

- 自ら身体を動かして遊ぼうとする意欲の育成
 - ・ 子どもたちの様子を見ると、打たれ弱かったり、ちょっとしたことで諦めがちになったりしてしまうことが多い。失敗しても挑戦するという強い気持ちを育てていかなければならない。
「たくましい子ども」は、身体だけでなく心の強さも必要であると考えた。
- 健康で安全な生活をする力の育成
 - ・ 「①」について
幼稚園で取り組んでいる部分もあるのだが、ここは家庭との連携が大事になってくる。今年は「メディア」を入れていなかったのだが、次年度は付け加える。保護者もメディアを多く活用しているので、活用の仕方や子どもたちへの与え方について一緒に考えていきたい。
 - ・ 「②」について
来年度もコロナの状況は大きく変わらないと思われるので、「関係機関との連携による命を守る指導（新型コロナウイルス感染症に対する正しい理解と実践）及び訓練（交通教室、避難訓練、防犯教室等）の工夫・改善を図っていく。
今年度予定していた計画は制限されるものが多く、「充実させたい」という思いでは取組んできたのだが、どうしてもこのコロナ禍の中、中止せざるを得ないものもあった。学校関係者評価委員会より“コロナ禍だからこそ”ということで、行事を様々な観点から見直し実践したことを高評価いただいた。この1年間、今まで当たり前だったことができなかったことで、何か違う方法はないかという視点で取組むことによって、新たな方法を見出すことができた。様々なことが見えてきており、良かった部分も多くあった。今年1年間のコロナ禍の経験を生かして、来年度は今年の実践をさらに充実できるような活動を考えていきたい。

○ 玉井小学校

（校長 小林 雄）

- 今年度のコロナ禍の中、「学校っていいな。楽しいな。」と言う子どもの声を聞き、学習の場としての学校の役割を改めて痛感した。それを胸に先生方と共に来年度の学校経営・運営ビジョンをつくった。
- いつも全校集会や1学期の始業式等で「自分やふるさとを好きになろう。大切にしよう。そして、目標をもって頑張ってみよう。」という話をしている。そういう子どもたちになってほしいし、育てていきたいと思っており、それを教育目標としている。その教育目標達成に向けて、学習や学校行事、学級の活動等を行っているわけなのだが、その中で、自分そし

て友達との自己マネジメント力を育てていきたいと考えている。RVPDCAサイクル<「実態を把握する」→「目標を持つ」→「計画を立てる」→「実践する」→「評価する」→「改善する」>を通して、発揮したい力（自分の考えをもつ力、目標をもち挑戦する力、協働して取り組む力、振り返る力）をつけていきたい。

<重点事項について>

「自ら学ぶ子ども」

- 基礎的な学力の育成と学習習慣の確立
 - ・ 学校評価の中で取り上げられた「読書の習慣化」を盛り込んでいる。
- 主体的に学び合う授業づくり
 - ・ 来年度一人1台のタブレットが導入されるので、ICTの効果的な活用に努める。
- 実践力の向上を図るための体験的学習の充実
 - ・ 地域学習で地域の方と共に学ぶという体験的な活動について
体験で終わるのではなく、問題発見・解決能力の育成を横断的な学び等を活用しながら、学習として確立する。

「心豊かな子ども」

- 道徳教育の充実、特別活動の充実
 - ・ 今年度コロナ禍でなかなか行事を思い通り実践できなかったのだが、その過程で子どもたちの企画が非常に大事であることを改めて感じた。子どもたちは、素晴らしい発想力や企画力をもっている。それを「特別活動の充実」の中に込めながら進めていきたいと思う。
 - ・ 自己肯定感を育成する。

「たくましい子ども」

- 体力・運動能力の向上、そのために日常化に引き続き取り組んでいきたい。
- メディア教育について
 - ・ 親子で学ぶ場や地域と一緒に学ぶ場を活用しながら取り組んでいく。
- 防災教育について
 - ・ 系統的・継続的に行っていききたい。そして、新型コロナウイルス感染症に対する正しい理解と感染防止の実践を図っていく。

○ 大玉中学校（校長 安田 浩明）

- 教育目標は今年度と同様。（全職員で検討）
- 学校経営の基本姿勢と目指す学校像について（下記のように変更）
 - ・ 生徒も教師も誇りをもてる学校 → 互いに認め合うことができる学校づくり
本校のキーワード“大玉プライド”に繋がる。評価委員から、具体的にどうやってプライドをもたせるのかという指摘を受けた。今までを振り返り、教師自身がプライドをもたせるためのメカニズムを有していなければならないと考えた。プライドをもつことは、子どもたちが自分に（社会に通用するような）自信をもつことであり、自信をもつということは認められることである。つまり、認め合うことが出発点である。子どもたちに対して良い所をどんどん言って伸ばすことが大切であると考えた。
 - ・ 保護者や地域から応援され、共に歩む学校 → 地域に貢献する学校づくり
大玉村立の学校として地域のありがたさを肌で感じている。しかし、学校として地域に貢献しているかというところでもない。winwinの関係で地域に貢献できる学校をつくっていききたい。
 - ・ 学び続ける教師がいる学校 → 指導力のある教師が揃う学校づくり
[キーワードは“虹のような学校組織”]
先生方が個々の持ち味を生かして指導力を発揮すること。それを子どもたちに見上げてもらう。すなわち、教職員が子どもたちから尊敬されるような存在となり、“虹のような学校組織”でありたいという思いを込めている。

<重点事項について>

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、確かな学力の向上を図る

【知育】

- 「ICTの効果的な活用による学習活動の充実と情報活用能力の育成」に力を入れていきたい。
- 本校の研究実践については来年度3年目を迎え、教科横断的な視点を通した資質・能力の育成が副主題になっている。今年度は、本校の研究物が中教研で県出品されお褒めの言葉をいただいたが、来年度もぜひそれを目指して先生方と共に校内研修を充実させていきたい。
- 学習習慣の確立
家庭との連携を図りながら取り組んでいく。

「地域や社会と接点を持ちつつ、多様な人々との心の交流を通して豊かな人間性や社会性を育む」
【徳育】

- 今年は、コロナの影響で体験・交流がなかなかできなかった。来年度は、豊かな体験・交流活動の推進に努めていく。できること、やれることを探していきたい。

現在、教育計画（教育課程を含む）の作成中であるが、各教科で共通認識のもと作成している。例えば、国語科であるならば書写の先生を招いて学ぶ機会をつくる等、そういうことを各教科で実践していく。そして、



- 地域との（心の）交流を図って いくようにしたい。
- “大玉プライド”の意識化を通した自己有用感の向上を図る。
 - ・ 集会活動等での子どもたちへの言葉かけ → いろんな先生が言葉をかけていくような機会を設けていきたい。
- メディア・リテラシー教育の推進
幼稚園、小学校からもいろいろ出てきているが、中学校でも力を入れていく。

「様々な体験活動を通して、心身の健康増進と防災・安全指導の充実を図る」 【体育】

- コロナ禍の影響で、全国と比べると体力が低い。全校を挙げて体力づくりプログラムを推進していきたい。特に劣っているのは全身持久力である。つまり、走り込みが足りないということ。何ができるかを体育の先生と話し合い、先生方に諮っていきたい。

【社会に開かれた教育課程を実現し、地域と共に歩む学校づくりに努める】について

- “新型コロナウイルス感染防止”と“子どもの学びの保障”を両立した創意工夫ある教育活動の展開を推進していく。

③ 意見交換 → 承認

（座 長）今年度は、1年を通して各校園の学校関係者評価委員の方々がオープンスクールに参加したり、評価の際にも前もって参観したりしながら様子を見ていただいた。ご意見をもとにその結果が「経営評価報告書」にまとめられた。そして、その評価した内容が次年度学校経営・運営ビジョンに生かされるということで、本当に素晴らしい仕組みである。ご意見があれば出していただきたい。

特にないようですので、承認手続きに移ります。承認いただける方は拍手をお願いします。

<拍手多数>

（座 長）承認ありがとうございました。1年間お疲れさまでした。

（2）令和3度おおたま学園CS委員会の運営について （事務局 指導主事 斎藤 一範）

- ① 令和2年度おおたま学園CS委員会を振り返って
～略～ 資料に基づき説明

② 基本方針（案）年間計画（案）説明

- 地域学校協働本部と連携・協働した教育活動を推進し、地域と共に歩む学校の実現、地域コミュニティの活性化等を目指す。
- ＣＳ委員会における熟議においては、各校園の経営計画や現状、課題等を共有する機会を設け、学校・家庭・地域が一体となって教育活動を充実させるための取組を検討する。**（追加項目）**
- オープンスクール（おおたま学園主催の授業研究会）に、ＣＳ委員の皆様も参加し、各校園の学校運営協議会をその当日夕方に行う。このことにより、子ども理解・学校理解のより一層の深まりとともに、それらに基づいた協議の活性化を目指す。
- 学校関係者評価を実施し、学校経営・運営の改善のサイクルが有効に機能するようにする。
- 第３回おおたまコミュニティ広場（第１３回大玉村教育フォーラム）は、保護者、村民の方々が年に１回集い、教育・子育てについて語り合う場として実施する。その際、保護者、村民ができるだけ多く参加できるよう、呼びかけ・周知を図る。
 なお、内容・方法については、ＣＳ委員会において協議する。限られた時間で協議が深まるよう運営方法を工夫する。
- 学校が主体となって企画するおおたま・オータム・フェスタ（第４回）の運営に参画し、ねらいの達成に寄与する。**（コロナ対策を講じる）（内容は令和元年度と同様）**

令和２年度の活動実績と令和３年度の計画（案）

令和２年度（実績）			令和３年度（案）
月	日	会議・主な活動	会議・主な活動
5	14	第１回役員会 ・第１回ＣＳ委員会運営・内容等検討	
5	28	第１回ＣＳ委員会 ・委員任命・学校関係者評価委員委嘱 ・年間計画（ＣＳ委員会運営・内容等） ・地域学校協働活動について ～小グループによる熟議～ ・各校園が重点的に取り組むこと、お願いしたいこと	5/11（火）第１回ＣＳ委員会 ・年間計画（ＣＳ委員会運営・内容等） ・地域学校協働活動について ・各校園が重点的に取り組むこと
6	25	第２回ＣＳ委員会（玉井幼稚園・玉井小学校運営協議会）※オープンスクール実施 10/29（木）へ延期	6/25（金）第２回ＣＳ委員会（玉井幼稚園・玉井小学校運営協議会） ※オープンスクール実施
7	7	第２回ＣＳ委員会 ～小グループによる熟議～ ・おおたま・オータム・フェスタの趣旨を取り入れた学校行事等の内容について ・園・学校再開後の状況や園・学校現場の課題等の共有。課題解決のためにできること等の検討。	7/6（火）第３回ＣＳ委員会
9	4	第３回ＣＳ委員会（大玉中学校運営協議会） ※オープンスクール実施	9/3（金）第４回ＣＳ委員会（大玉中学校運営協議会） ※オープンスクール実施
10	3	おおたま・オータム・フェスタ（小・中）運営・参画 【中止】 10/9（金）おおたま・オータム・フェスタ（幼）運営・参画 【中止】	10/2（土）おおたま・オータム・フェスタ（小・中）運営・参画 ※予備日10/4（日） 10/15（金）おおたま・オータム・フェスタ（幼）運営・参画
10	6	第４回ＣＳ委員会 ～小グループによる熟議 ・第２回おおたまコミュニティ広場の内容に	10/5（火）第５回ＣＳ委員会

		ついて	
10	29	第5回CS委員会（大山幼稚園・小学校運営協議会）※オープンスクール実施	
11	27	第6回CS委員会（玉井幼稚園・玉井小学校運営協議会）※オープンスクール実施 臨時役員会 ・おおたまコミュニティ広場の内容について ・第7回CS委員会の内容について	11/26（金）第6回CS委員会（大山幼稚園・大山小学校運営協議会）※オープンスクール実施
12	7	第7回CS委員会 ・講話「学校評価の意義と評価委員会の役割」（講師 福島学院大学教授 渡辺博志氏） ・おおたまコミュニティ広場の内容について～小グループによる熟議～ ・令和3年度各校・各園の学校運営方針（案）について～小グループによる熟議～	12/13（月）第7回CS委員会
1	14	第8回CS委員会 ・令和2年度CS委員会活動について ・CS委員会の運営について～小グループによる熟議～ ・おおたまコミュニティ広場の内容変更について	1/13（木）第8回CS委員会
		各校園ごとに学校関係者評価実施 大山幼… 2/4 玉井幼… 1/28 大山小… 2/5 玉井小… 2/3 大玉中… 2/9	1月～2月学校関係者評価実施 各校・園委嘱の学校関係者評価委員が行う。各校・園毎に日時設定※年間の振り返り
2	20から	第2回おおたまコミュニティ広場（第12回大玉村教育フォーラム） ・開会行事 ・小・中学生の発表 YouTubeによる動画配信 2/28まで	2/（ ）第3回おおたまコミュニティ広場（第13回大玉村教育フォーラム）
2	25	第9回CS委員会 ・学校関係者評価報告 ・学校運営方針→承認・R2反省 ・R3計画（CS委員会の組織、運営等）	2/24（木）第9回CS委員会 ・おおたまコミュニティ広場反省 ・学校関係者評価報告 ・学校運営方針→承認 ・R3反省・R4計画
2	26から	第9回全国コミュニティ・スクール研究大会 栃木デジタルフォーラム 栃木県栃木市 オンデマンド配信 3/26（金）まで	

- 6、9、11月実施の各校・園主体の学校運営協議会は、オープンスクール（5校時の授業参観）と一緒にやる。そのため、午後から夕方にかけて開催する。（授業参観－事後研究会－学校運営協議会の午後半日の予定）
- CS委員の任期は2年のため、令和3年度に委員の改選を行う。

③ 意見交換

（座長）「おおたま学園CS委員会を振り返って」にあるように、皆さんには貴重なご意見をいただいた。それをもとに、来年度いろいろなことを計画しながら進めていければと思っている。

若干ではあるが、意見交換の時間をとってみたい。まず、矢吹副会長が、コミュニティ広場を視聴しておもしろいことを考えているということなのでお話しいただきたい。

(矢吹副会長)

- 皆さんもご覧になったと思うが、(小中学校のコミュニティ広場の内容)を見てとても感動した。率直に感じたのは、直売所関係の話題がとても多かったということで、何かしら応答をしないと子どもたちの期待を裏切ることになると感じた。
- 大山小学校の発表で「きびだんごをつくる」というものがあり、また、米粉のサンドイッチやマチュピチュの料理を作る人を呼んで食べてみたいという内容があったので、下記のことを実践することにした。(3月4日<木>に大山小6年生と改善センターで)
 - ・ マチュピチュの料理を簡単に作って食べてもらうこと
 - ・ きびだんご作りは難しいので、米粉でだんごを作って食べてもらう。(最終的には直売所で商品化し販売)
- 中学校の提案で“米 米 Nice Rice”プロジェクトがあったが、この中で米粉のクッキー、カップケーキを作って販売してはどうかという提案があった。中学校と打合せをしてさっそくレシピをいただいた。これを直売所で一度試作してみてプロジェクトチームのメンバー10人に試食してもらい、試作を重ねて商品化させていただければと思っている。
- 以上のように、“米 米 Nice Rice”プロジェクトとして、クッキー、カップケーキ、だんごを米粉から作った製品の統一ブランドとして直売所で販売させていただければと考えている。
- 中学生から米のネット販売についての提案があった。大きいサイズは売れないだろうという考えで設定しなかったのだが、中学生から10kg、30kgがあってもよいという提案である。昨日ネット販売の業者と打合せをし、直売所のホームページのオンラインショップに新たなアイテムとして追加するようにした。
- 子どもたちから素晴らしい提案をいただいたので、「大人は期待を裏切らない。大玉の人は何かやってくれるんだよ。」ということを示したかった。昨年もわら細工等の提案があり、すぐに行動に移した経緯もある。最終的に商品化までするというご批判もあるかと思うのだが、よろしく願いたい。



(座 長)「CS委員会を振り返って」の成果の中にもあったが、コミュニティ広場で話題になったことはその後どうなるのかと疑問に思った方もいると思う。コミュニティ広場で出された案が実際にどうなるのか、また、どうしたらいいのか、それを子どもたちにどんなふうに還元したらいいのかを明らかにする等の話し合い(熟議)をし、さらに前に進めていけばいいと考える。

それ以外にも皆さんからご意見をいただきたい。1年間を振り返ってのことや基本方針、次年度の年間計画等で提案したいことや疑問等があったら願いたい。

(吉田副会長)先生方や地域の方々には、コロナ禍だからできないのではなく、コロナ禍をチャンスととらえて、子どもの意見を取入れながら、どうしたら実施できるかとチャレンジしていただいたことに感謝している。先生方も教師として大変であると思うが、子どもの意見を反映させていく(子どもの意見に耳を傾けそれを実現させていく)ような流れを作ってくださったことは本当にありがたいことだと思っている。

今回コロナ禍でなかなか体験できなかったが、それを令和3年度にどのようにしていったらいいか、今年度の経験をどう生かしていったらいいか等考えていく必要がある。また、さらに子どもの意見を吸い上げることによって、子どものやりがいや手応えになり、後々良い思い出につながっていくのではないかと思う。こういうことが今後も継続していけば素晴らしい。

次年度も様々な意見を出し合いながら、努力をしながらCSを進めていきたい。

(田邊委員)CS委員になって2年目であるが、「こういうことでみんなが動いていたんだな。」ということがようやく分かってきた感じがしている。地域住民代表としては、何か地域に、または、近所の人たちだけでいいからお伝えしたいなと微力ながら思っている。しかし、「学校・家庭・地域」の中の地域が、どうやったらもう少し活性化して動けるのか考えていたのだが難しい。

先ほどの話にもあったが、発信の仕方をいろいろな形で努力くださってはいるが、そのへんがなかなか自分の中でも動けていないなという感じがしている。

(佐原委員) 2年間CS委員をさせていた

だいた。長い間、幼稚園、小・中学校と直接携わる機会がなかったが、最近の学校の事情がよく分かった。今回CSに参加して、先生方や子どもたちが生き生きと勉強している姿を見られたことは本当に良かった。私の時代は、子育てに一生懸命で、何となくせわしく見ていた。時間が過ぎ、今回見ることができたことは、自分としても勉強になったと思うし、このようなことを他の人にもCS委員として経験してほしい。いろいろな人にCS委員になってもらい、幼稚園や学校をみてもらうのもいいのではないかと考える。



(渡辺委員) 皆さんがこのように頑張っているのを素晴らしいと感じている。

(座 長) 以上で令和3年度CS委員会の運営についての協議を終了する。

(6) その他
特になし

6 今年度の総括

(CS委員会会長 伊藤 和弥)

この2年間皆さんにお世話になりながら、私も職務を行うことができた。携わってみたいとどんなことをしているのなかなか分からないこともたくさんあると思う。また、課題の「情報発信をどのようにしたらCSの活動を理解してもらえるのか」を考えてはきたが、なかなか難しい問題であると思った。また、このCS委員会を通して、皆さんも感じていると思うが、自分自身が成長できているのではないかと思った。いろんな協議や熟議を通して、様々な考え方があることを実感できた。

終わりに、このメンバーでの活動は任期2年ということで今回が最後になりますが、皆さんには本当にお世話になりました。ありがとうございました。

7 その他

- おおたまコミュニティ広場のアンケート提出 … 3月1日(月)まで
- 全国CS研究大会の配信…2月26日(金)～3月26日(金) *事前登録が必要2/26まで
- おおたま学園より … 3月の卒業式は、コロナ禍のため来賓を村長、議長、教育長、PTA会長に絞って実施する予定。CS委員の皆さんはお呼びできないのでご容赦願いたい。

8 閉会の言葉

(CS委員会副会長 吉田 都)

皆さん長時間ご苦勞様でした。以上をもちまして令和2年度最後のCS委員会、第9回おおたま学園CS委員会を終了したいと思います。ありがとうございました。